（2月例会「コレクション紹介」より）

# マナスル多数貼りの現金書留便

永吉 秀夫

その昔、筆者が切手に目覚めた頃の「切手少年たちのあこがれの的」のひとつが、1956年発行の「マナスル登頂記念」でした。日本切手の代表として名高い「見返り美人」や「月に雁」は、超大型ですが単色刷りです。本格的な多色刷りの「ビードロ」も、確かにあこがれの切手のひとつでしたが、くすんだ色調のためか、子供心を惹きつけるのに欠けるところがありました。

その点この「マナスル」や同時期発行の「写楽」は、コート紙使用のおかげで発色が鮮やかで、子供達の目を引きつけるのに充分でした。「見返り美人」のようにとうてい子供達の手の届かない切手ではなく、頑張れば何とか入手できる切手であったことも、これらの切手の人気を支えていました。

もちろん当時は未使用切手を1枚入手してそれで満足していたわけですが、最近になって改めて、この切手の貼られた郵便物に目が向くようになりました。

カバー収集の基本はもちろん1枚貼り書状ですが、紹介品のような多数貼りを前にすると、かつて子供心を惹きつけた魔力が呼び起こされます。当時の現金書留便の基本料金は45円(書状10円＋書留料35円)ですが、この封筒にはマナスルが1枚余分に貼られ、55円料金となっています。2倍重量で書状料金が10円増であったか、要償額が2段階増の5000円だったための10円増なのかはわかりませんが、この封筒の見栄えをより豪華にする働きをしています。

ところで、この封筒に押されている消印の局名の「山梨・山梨村」が気になります。書留ラベルの局名にも書かれています。裏面の差出人の住所を見ると、「山梨市正●寺789」とあります。山梨県山梨市に、山梨村郵便局というのがあったことになります。ややこしい話ですね。

現在の山梨市には「正徳寺局」という郵便局がありますが、その前身でしょうか？　差出人住所の●の文字、崩し字を読む教養がなくて「徳」とは読めないのですが...。

現金書留便　　山梨・山梨村　S31(1956).11.16 → 東京都